



上京竜泉府禁苑の池北部の二島（南東から）

究費：代表者高瀬要一）をおこなっています。今年度は、中国黒龍江省寧安市所在の渤海上京竜泉府禁苑跡を調査対象とし、6月下旬、高瀬、小野のほか研究分担者である藤井英二郎さん（千葉大学）、白志星さん（韓国全南大学校）、さらに現地事情に詳しい小嶋芳孝さん（石川県埋蔵文化財センター）などの参加を得て、現地調査に赴きました。

渤海は、7世紀末から10世紀初頭にかけて現在の中国東北地方を中心に成立した国家。日本との交流も、神亀4年（727）を初めとして渤海使の来日34回、日本からの遣渤海使13回という、当時としては頻繁なものでした。渤海国は8世紀代には何度か都を移していますが、9世紀初頭から滅亡に至るまでのあいだ都であったのが上京竜泉府です。上京竜泉府については、戦前、東亜考古学会が現地調査をおこない、成果は『東京城』（1939年）として刊行されています。

私たちの一行は、今回、黒龍江省文物考古研究所などの配慮で、禁苑跡を自由に踏査することを許されました。禁苑は宮殿区の東に位置し、土塁で囲まれた東西約200m、南北約300mの区画。中央やや北よりに南北に長い楕円形の池があり、その北方に禁苑正殿の礎石が残っています。さらに池の北部には、東西二つの築山状の島が並び、それぞれの頂部にも礎石が残っています。これらは、『東京城』所載の図の状況を残しており、60年以上にわたってほとんど手付かずであったことを示していました。そうしたなか、『東京城』所載図にない「発見」となったのが池南部の隅丸方形の低い島の所在です。現地を何度か訪れたことのある小嶋さんもこれまで気付かなかったとのこと。今回は、池底が比較的乾燥していて池の中もなんとか歩ける状態だったのが幸いしたようです。もちろん、黒龍江省側は南の島の存在は認識していて、付設の博物館に展示してあ

❀ 渤海国上京竜泉府禁苑跡の調査

遺跡研究室では、古代庭園に関する調査研究を研究の一方の柱としていますが、それに関連して「東アジアにおける古代庭園遺跡の調査研究」（科学研

る模型にはちゃんと表現されていました。とはいえ、こんなことも『東京城』を読んでいただけでは決してわからないこと。あらためて現地で実物に接することの重要性を感じた次第です。

(文化遺産研究部 小野健吉)